

東山魁夷館

«光昏»小下図1955年 信濃町・野尻湖ホテルより黒姫山を望む



金色の空、逆光の暗紫色の山、
夕影の中にある紅葉の樹々。黒々とした湖面。
光と昏(くら)さ、華麗さと重厚さ。

(東山魁夷全集1『風景巡礼I』講談社1979年)



«光昏»スケッチA 1954年

野尻湖ホテルから望む黒姫山に、箱根姥子で写生した紅葉を取り入れて構成した作品です。「絵葉書式の風景」だったスケッチを眺めながら、空を金色に、山を暗紫色に、湖を黒に、配色を変えることを思いつき、大作が誕生しました。「外観は洋風のかかなり大きな建物で、どっしりとした茅葺屋根が印象的」だったという同ホテルで、魁夷はいろいろな部屋からスケッチし、秋だけでなく、春も訪れて写生をしました。残念ながら、野尻湖ホテルの建物は取り壊されて現在はありませんが、魁夷に「いくら眺めていても飽きない」と言わしめた野尻湖の美しい景色を堪能したいものです。

本作には、出品直前、モーツァルト「交響曲第41番ジュピター」を聞くうちに気持ちが高揚して、強弱を付けて仕上げられたというエピソードもあります。